

今に応え、未来へ進む 前向きに挑戦する一年

迎春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。新しい年が始まりました。
今年の干支は丙午（ひのえうま）。情熱をもって、覚悟を決めて行動する一年にします。

《今に応え、前に進む》

年末年始には、消防団の夜警を巡回させていただいたほか、**神社やお寺への参拝**などを通じて、多くの皆さまと直接お会いし、様々なお声を伺う機会をいただきました。その中で特に多く聞かれたのは、**物価高や将来への不安**といった、日々の暮らしに直結する切実な声でした。また、国際情勢の変化、とりわけ台湾海峡周辺をめぐる中国の動きなど、日本の安全保障を心配する声も少なくありませんでした。

日本は大きな転換点にあります。国内では、物価上昇や賃金の伸び悩み、少子高齢化による社会保障の負担増など、これまでの仕組みが限界に近づいています。一方で国際的には、安全保障環境の悪化や、経済・技術をめぐる競争の激化など、日本の進むべき方向そのものが厳しく問われています。日本はいま、明確な選択を迫られています。

現状にとどまり課題を先送りしていくのか、それとも**新たな挑戦と決断**によって未来を切り拓いていくのか。私は、今に比べると同時に、将来につながる「前に進む実感」を積み重ねていくことが大切だと考えています。

いくのか。私は、今に比べると同時に、将来につながる「前に進む実感」を積み重ねていくことが大切だと考えています。

《令和8年度予算案》

昨年末には、令和8年度当初予算案が閣議決定されました。賃上げや物価高対策、科学技術への投資、地方創生、防災・国土強靱化など、日本が進むべき方向性が示されています。重要なのは、こうした政策を、暮らしの中で「変わった」と実感していただける形につなげていくことです。

《日本を再び世界一の国へ》

私がこれまで一貫して大切にしてきたのは、**日本が世界で戦える分野に、しっかりと力を注ぐこと**です。自動車、GXやDX、先端・基礎研究、農業、スポーツや文化芸術、アニメ・漫画などのコンテンツ産業など、日本には確かな強みがあります。挑戦によって成長を生み、その成果を社会全体に広げていく前向きな政治が、いまこそ求められていると感じています。

また、豊橋・田原をはじめとする東三河地域には、**農業、製造業、港湾、エネルギーなど、世界に通用する産業の土台**があります。地域の強みを磨き、人・モノ・カネの流れを生み出すことで、ここから日本全体を元気にしていく。その一助を担えるよう、引き続き努力していきたいと考えています。

から日本全体を元気にしていく。その一助を担えるよう、引き続き努力していきたいと考えています。

《社会保障》

医療・介護・福祉は、誰もが安心して暮らし続けるための基盤です。現場を支える人たちが安心して働き続けられるよう、制度を現実化した形へと整えていく必要があります。現場の声に丁寧に耳を傾けながら、できることを一つひとつ進めてまいります。

《毎日が勝負の年》

現在は落選中の立場ではありませんが、活動が続ける中で、応援してくださる声や支援の輪が着実に広がっていることを実感しています。また、各地域で後援会を立ち上げていただいていることにも、心から感謝申し上げます。

今年、私にとってまさに勝負の年です。必ず訪れる審判の日に、「この人にもう一度仕事を任せたい」と思っていただけのように、日々の活動に真摯に取り組んでいきます。

《今に応え、未来へ進むために》

この豊橋・田原の地で前向きに挑戦を続けながら、皆さまと共に歩んでまいります。

前衆議院議員

山本左近

山本左近の活動はこちら



H.P. YouTube Twitter Facebook Instagram

《やまもと・さこん》

愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。43歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバードビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙に自民党比例代表で2期目に立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。



令和八年（丙午）がスタート



元旦は神社や街頭活動から
新年をスタートしました



今年は丙午（ひのえうま）
情熱的に、行動力の一年に！



年末は恒例の餅つき
各所でたくさんつきました



年末の豊橋魚市場にて
物価高の状況や課題など聞く



豊橋、田原の消防団の夜警に激励
担い手や負担の集中など課題を聞く

年末の動き → 自動車税・環境性能割を廃止決定

①環境性能割を廃止

「取得時」の負担については、消費税率が10%であることに加え、環境性能割が上乗せされる構造となっていました。今回の決定で2026年3月31日をもって廃止。

自動車購入は家計における最大の支出の一つであり、ここのハードルを下げることは、自動車業界だけでなく保険、ローン、観光など幅広い関連産業への波及効果が見込めます。複雑な制度を廃止することは徴税コストの削減や行政手続きのDX推進にも寄与します。

②エコカー減税（重量税）の延長と厳格化

2026年5月以降も2年間延長
減税対象となる燃費基準がこれまでより厳しく設定される予定。

③EV（電気自動車）への課税強化（2028年～）

EVのバッテリーにより車重が増え、道路損傷負荷が大きいため、2028年（令和10年）5月以降、EV・PHEVに対し車両重量に応じた追加課税を導入する方針を検討。

クルマの税金、こう変わる！ 2026年度 自動車税制改正のポイント

